

通研電気工業が、太陽光発電遠隔監視制御システムの開発で 64 bit Linux 版 SL-GMS を採用

電力設備の監視制御を支える操作卓の GUI 画面を、迅速に開発して運用

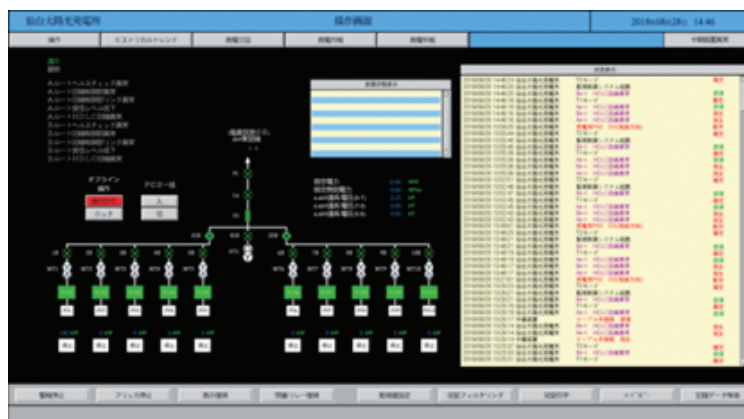
結ぶ 見まもる 創りだす

Tuken

2019年4月3日 ニュースリリースより

SL ジャパンは、東北電力企業グループの通研電気工業株式会社（以下「通研」）が、複数の太陽光発電所における電力設備の遠隔監視制御システムの開発で、DCS（分散制御システム）専門のダイナミック GUI/HMI ツールである 64 bit Linux 版 SL-GMS C++/Developer を使用していることを発表しました。

今回、高可用性の 64 bit 版 Linux 産業用パソコンを採用している太陽光遠隔監視制御システムは、太陽光発電所におけるパワーコンディショナ（太陽光発電の変換）や連系変電設備の遮断機などの設備を、遠隔地より 24 時間 365 日の連続稼働で集中監視制御するもので、要となるデータ通信の品質と信頼性も強化しています。そして、監視制御システム操作卓の多彩な動的グラフィック画面は SL-GMS C++/Developer で開発され、ノンストップかつリアルタイムで運用されています。



（事例より）操作画面におけるグラフィックな系統図とアラートテーブル

SL-GMSを使用している操作卓では、電気設備の制御や数値情報の監視をはじめ、設備の状態変化や故障データのロギング、数値データを取り込んでのヒストリカルトレンドの作成および帳票作成などの豊富で高度な監視・制御機能を、軽くて高対話性のわかり易い GUI でアクセスでき、太陽光発電の出力調整ならびに送電系統との連系を支えています。

☆ニュースリリース全文はこちら: http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2019/sl_j_press_190403.shtml

IoT データのリアルタイムな可視化と監視ダッシュボードを RTView でクラウド運用

去る 3 月 8 日に開催した IoT World Conference セッション拡大版セミナーでは、中央制御室からモバイルで一元監視するダッシュボードへの展開まで、カスタム構築する IoT データのリアルタイムな可視化と監視について、お客様による開発事例とデモを中心にご紹介しました。

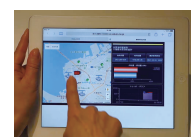
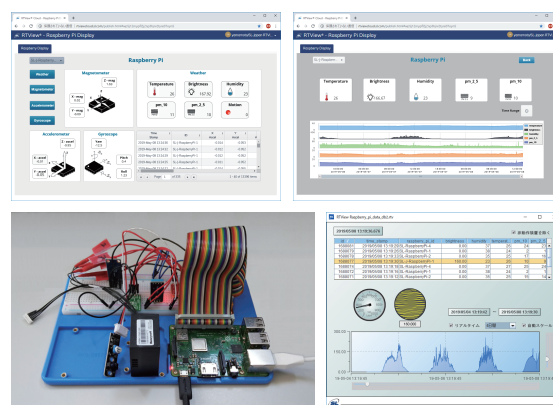
さまざまなデモの一つとして、会場へ持ち込んだ Raspberry Pi に接続したセンサおよび米国にも設置されている複数のセンサから収集されている温度・湿度・照度・大気汚染 (pm2.5, pm10) などのデータをクラウド運用で監視している RTView のグラフィックなダッシュボードを、そのカスタム構築過程とともにご覧いただきました（右写真と画面）。

RTView では、データベースや運用管理ツールに集約された、複数のデータセンターや事業所、工場、プラント、ビルなどにおける、ICT 設備、照明・空調設備、電気設備、生産設備などからのさまざまな IoT データを、容易に一元可視化できます。モノの監視 “Monitoring of Things” は、SL 社が長年得意としてきた専門分野です。

監視ダッシュボード画面は、RTView のポイント＆クリックで簡単操作のビルダーを使って、適用システム、オペレーション、サービスに応じて完全にカスタム構築できます。そして、RTView のディスプレイサーバ機能を使って、全社的、または全国や世界中に監視ダッシュボードをクラウド運用で展開でき、RTView のロールベースセキュリティ機能を使って、管理者向け、社内オペレーション向け、フィールドサポート向け、顧客向けなど、スマートフォンからもシンクライアントでアクセスできます。

☆「RTView のディスプレイサーバによるシンクライアントでクラウド運用 [IoT データの監視]」デモビデオ (1分26秒):

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv_demovideos_new.shtml?id=rtview_iot_cloud_ipad



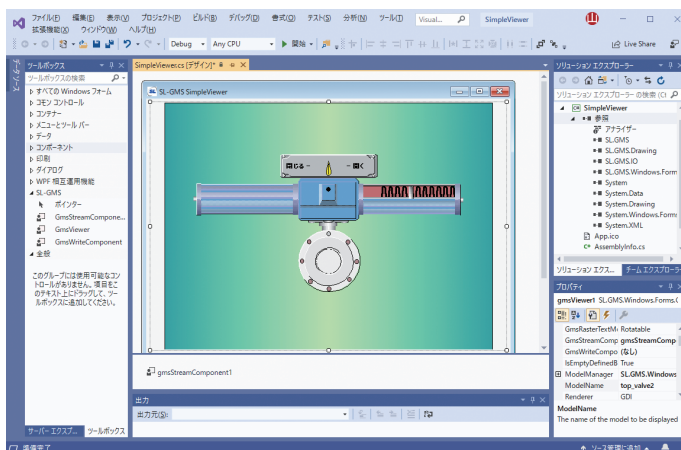
2019年4月26日 ニュースリリースより:

SL ジャパンは、24時間365日決して止まることのない監視制御システム専門のリアルタイムダイナミック GUI/HMIとそのシステム固有のカスタムエディタを迅速に開発するためのツールである SL-GMS の Microsoft .NET 版最新バージョン 5.1a ならびに C++ Windows 版最新バージョン 7.1a で、4月初めにマイクロソフトよりリリースされた Visual Studio 2019 を正式にサポート追加しました。

今回新たに追加されるメディアは、64 bit/32 bit 版 SL-GMS Developer for .NET および 64 bit/32 bit Windows 版 SL-GMS C++/Developer のそれぞれで、従来の Visual Studio 2017, Visual Studio 2015 おのおのとは別になります。

☆ニュースリリース全文:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2019/sl_j_press_190426.shtml



「Visual Studio 2019 を使った、SL-GMS (64 bit .NET 版) 開発」新デモビデオ (3分37秒)

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/slgms_demovideos.shtml?id=gmsdotnet_vs2019

Linux 版 SL-GMS C++/Developer 新バージョン 7.1b をリリース

2019年3月18日 ニュースリリースより:

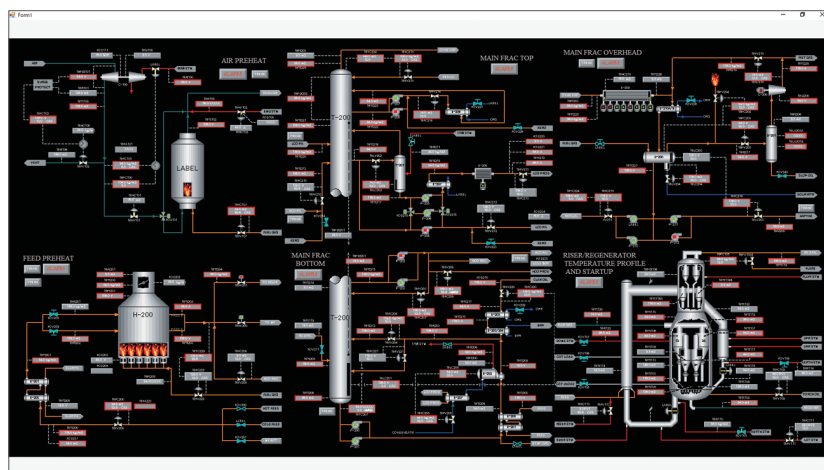
SL ジャパンは、SL-GMS C++/Developer の Linux 版新バージョン 7.1b をリリースし、高度な制御システム (DCS/SCADA) の開発ならびに運用をさらに支援強化しました。

SL-GMS C++/Developer は、1980 年代に開発された数多くの監視制御システムが、UNIX から Linux や Windows へのシステム更改を経て今日もなお稼働し続けている一方で、新たなプロジェクトの数々で採用され続けているロングセラー製品です。

今回の Linux 版新バージョン 7.1b は、昨年末にリリースした Windows 版の SL-GMS C++/Developer 新バージョン 7.1a に続いて、リリースするものです。高解像度モニターをサポート強化、DXF 変換ツールの改善、アラビア語対応 (世界で使用される上位言語)、64 bit 版におけるオブジェクト移動の修正などを行っており、新しい制御システムの開発ならびに保守における生産性をさらに上げます。

☆ニュースリリース全文:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2019/sl_j_press_190318.shtml



多数のオブジェクトで構成されるグラフィック系統図を表示する大規模な制御システムでその性能と信頼性を発揮してきた SL-GMS C++/Developer

ユーザーにも好評の SL-GMS 構築技法 세미나を今年も新しい事例と技法追加で開催!

SL-GMS による、高度な監視制御システム画面とその専用カスタムエディタ構築技法 세미나開催

～ SL-GMS ユーザー事例とデモで見る制御システムの開発動向 ～

2019年6月14日 (金) 15:00 ~ 17:00 @TEPIA (東京・青山) [無料・事前登録制]

☆制御システム (DCS/SCADA) 開発におけるさまざまな機能の実装技法を、デモと事例 (画面) を中心に具体的にご覧いただきます:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar_dotnet.shtml

リモートデスクトップによるシンクライアント運用や 64 bit 化などの事例をはじめ、国内 SL-GMS ユーザー様の豊富な事例で見る制御システム (DCS/SCADA) の開発動向を、今年も新しい事例を追加してご紹介してまいります。また、さまざまな人気機能と実装手法をデモでご覧いただきます。

ご来場の皆さまには
SL ジャパン
設立 20 周年
記念品を
プレゼント♪



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

Real-Time Visibility

年3回発行 2019年5月27日発行 通巻63号

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。